

序

令和4年1月、今まさに第6波と呼ばれる感染拡大を引き起こしている新型コロナウイルスの猛威や、温暖化ガスの排出増・蓄積による異常気象と自然災害の多発、天然資源の枯渇や自然破壊・環境汚染の進行、さらには国家間紛争の多発による安全保障上の危機など、多くの課題がグローバル規模で日々深刻化しているのは、誰の目にも明らかです。これらの難問に対峙して解決できるのは人類以外に見出せません。将来こうした場面で活躍できる人材の育成あるいはその教育システムの構築こそが、特に我が国の国立大学附属学校群に求められているミッションではないかと思えます。

このような使命に応えるべく、国立大学法人筑波大学は、今年度末を区切りとして策定した第3期中期目標・中期計画において、大学としての理念と目標を掲げつつ、附属学校群については、21世紀の教育に向けた初等・中等・高等教育の一貫化における全国的な先導とそのため組織改革、およびグローバル人材育成のための他大学・附属学校との連携による教育モデルの構築などを目標に定めました。また、その具体的な計画として、①学校種・キャンパスを超えた連携・再編を促進しながらのグローバル人材や高度な専門性を有する教師の育成システムの構築、②先導的教育拠点・教師教育拠点・国際教育拠点としての成果を活かした「コンソーシアム」の創設、③カリキュラムの開発・提案や教師の指導力の蓄積、実践研究知見の共有、さらに他の教育研究機関との協働体制の強化などによる「筑波型インクルーシブ教育システムを目指したプログラム」の開発とその全国的な成果還元を掲げました。

これに対して「挑戦し、創造し、貢献する生き方をめざす」ことを教育目標に掲げる本校では、3年目に突入したコロナ禍にあっても、上記の中期目標・計画に従い、学業・学校行事・部活動を通して、自由・闊達の校風の下、真のグローバルトップリーダーの育成を目指した教育モデルの構築に取り組んでまいりました。特に前述の3つの拠点づくりは、本学教育局が最も力を入れてきた計画であり、そこで行われてきた様々な教育・研究活動の成果は、今年度で48回目を迎えた教育研究会でも報告させていただきました。その他、教員個々あるいはグループで様々な媒体による国内外に向けた情報発信が積極的に行われており、そうしたものの一つがここにお届けする論文集となります。

特に今年度は、2017年度より取り組んできた「国際社会に貢献する科学者・技術者の育成を目指した探究型学習システムの構築と教材開発」を課題とするスーパーサイエンスハイスクール（SSH）第4期締めくくりの最終年度として、「主体的で探究的な深い学び」をテーマとした研究に取り組んできました。ここに掲載するプロジェクト研究および個人研究の報告には、昨年度の新型コロナウイルス感染対策の検証を踏まえた今年度の対応（生徒部）やコロナ禍での保健活動の実践など、いまだに続くコロナ感染対策と学校運営に深く関係する報文も含まれております。

本論文集が、関係各位の教育研究の発展の一助になることを祈念するとともに、国立大学法人の附属学校教育研究のさらなる深化のため、皆様の忌憚のないご意見やご教示を賜れば幸甚です。

2022年3月

筑波大学附属駒場中・高等学校
校長 北村 豊